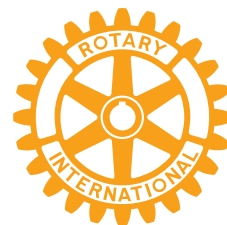


2020-2021年度 Vol.01

ガバナー月信

7
月号

Rotary



Rotary International District 2570
GOVERNOR's Monthly Letter
Vol.1 January 2020



《山峡新緑羊蹄山》



Rotary Opens Opportunities

【地区テーマ】

Let's make Fellows!

友達を作ろう

国際ロータリー会長 ご挨拶

2020 - 21年度国際ロータリー会長
ホルガー・クナーク



14年前、ロータリーはここサンディエゴで初となる国際協議会を開催しました。当時ガバナーエレクトだった私は、今皆さんがおられるところに座り、待ち受ける責務とリーダーとしての挑戦で緊張しておりました。

2020年となった今、サンディエゴで開かれる最後の国際協議会でも、やや緊張気味です。私にとっては今回のほうが責務が大きいからです。しかし、可能性も大きいのです。これからのあらゆる機会を皆さんと共有できることを、とても楽しみにしています。

新たなリーダーシップの年度とともに地区の重要な仕事が終わってしまわずに、さらに注力されていくよう、皆さんはチームの一員となって年度を越えて協力します。

私もチームの一員です。

ロータリーの成長に対するマーク・マローニー会長の強い決意を受け継いでいけることを誇りに思います。とはいえ、数字を掲げて成長を求めるようなことはしません。その理由はごく単純です。これまで数字を掲げて成長を求めるたびに、失敗に終わってきたからです。皆さんには、数字にこだわる代わりに、有機的かつ持続可能なかたちで、いかにしてロータリーを成長させることができるかを考えていただきたいと思います。いかに現会員を維持し、クラブにふさわしい新会員を募れるか。そして、立ちほだかる課題に立



Rotary Opens Opportunities

ロータリーは機会の扉を開く

ち向かうため、いかに組織を強くできるか。ポリオ根絶の取り組みによって世界でロータリーへの認識が高まっているこの絶好の機会に、行動を起こさなくてはなりません。「太陽が出ているうちに屋根を修理しなければならない」のです。

多くの意味で、ロータリーは素晴らしい状態にあります。財務も健全です。財団は、世界で最高の慈善団体の一つに数えられています。グローバル補助金は増え続け、ロータリーは年々、国際的な活動に注力するようになっていきます。

ロータリーはまた、興味深いかたちで進化しています。今では、アジアのロータリアン数が北米のその数を上回っています。しかし、この傾向が続けばリスクもあります。特に人口の高齢化が進む地域で、ロータリーが衰退し、高齢化しています。

何もせずにこれまでの功績に満足していることはできません。デジタル革命が私たちにもたらした打撃は、予想をはるかに超えています。これまでもこの課題に直面していましたが、十分な対応が取られてきませんでした。

最近、ニューヨーク州ロchesterでロータリアンの方々にお話しする機会がありました。コダックの元幹部もそこに出席していました。その方によると、写真がいずれデジタルに移行するだろうと皆わかってきたものの、実際にそれほど早くそれが起こるとは予期していなかったそうです。業界の世界的リーダー

だった同社は、わずか数年で倒産してしまいました。

時間は、私たちのためにスロウダウンしてくれません。とはいえ、私たちは急速な変化に負けません。この機会をとらえてロータリーを成長させ、より強く、適応力を高め、中核的価値観により沿ったロータリーとなるのです。

ドイツで私たちは、ロータリーは価値を共有し、高潔な心をもつ人のコミュニティであると考えています。人びとをロータリーに引きつけるのは、友情と人脈づくりの機会です。だからこそ、クラブが強いのです。奉仕の力は強いクラブから生まれます。

「四つのテスト」は、客観的に物事を決める上で助けとなります。その要は、内省です。時に、自分の目で見ることが真実であるかどうかさえわからなくなることがあります。しかし、「四つのテスト」のおかげで、私たちはこう自問します。「自分は正直か」「自分のしていることは正しいか」と。これは大切なことです。では、自分に正直であるなら、将来を考えたとき、待ち受ける課題に取り組むためにロータリーは十分に手を尽くしていると言えるでしょうか。

ロータリーは変わらなければなりませんし、必ず変わります。古き良きロータリーではなくなったと文句を言うロータリアン仲間がいたとしても、変わらなければならないのです。ポール・ハリスが言ったように、時に革命的でなければなりません。

そして、革命的であるべきときは、まさに今なのです。その一つの方法は、新クラブのモデルをつくり、ロータリー会員であることの意味を考え直すことです。新クラブの設計者は、若い人たちであるべきです。

多くの若者にとって、一緒に座って食事をするのは、一番良い例会の方法ではありません。この方法で100年以上例会を開いてきたからといって、それが唯一の方法であるわけではありません。例えば、スザンヌが所属するクラブは地元のEクラブですが、週1回、オンラインで例会を行い、スマートフォンのアプリで連絡を取りあい、顔を合わせるの

は月1回です。スザンヌのクラブの会員は、27歳から70歳にわたります。私は、ロータリークラブのこのような世代の多様性が好きです。多世代のクラブ、これこそが理想です。これに成功するクラブもあるでしょうが、若い世代のニーズに応じてはじめて可能となります。

新しいアプローチに心を開かなくてはなりません。若い人たちのためにユニークな新クラブをつくることは、解決策の一部にすぎません。皆さんには、これを実施する力があります。これが成功するかどうかは、皆さん次第です。新しいロータリークラブの結成は、地区ガバナー特有の責務です。国際ロータリーが既に変化を受け入れた今、これらの新クラブを実現できるかどうかは皆さんにかかっています。

ロータリーは機会の扉を開く

ところで、若い世代の声を聞き、既存クラブへの入会を若い世代にとってより魅力的なものとする一つの方法は、環境にもっと焦点を当てることです。オーストラリアの山火事など、近年の災害により、断固たる行動を取ることの重要性が浮き彫りとなっています。過去3代の会長は、環境保全にロータリーがより力を入れるべきであることを強く主張しました。できることは数多くあります。プラスチックの消費を減らすこと、自宅やオフィスの冷房や暖房を効かせすぎないこと、ドイツの高速道路で飛ばしすぎないこと……。ロータリーは奉仕プロジェクトに環境保護や持続可能性を既に組み入れています。これらの問題をもっと優先させなければなりません。若い人たちは、私たちから行動へのインスピレーションをもらうことを待っています。

今の若者は、奉仕を楽しみ、活動的でありたいと望んでいます。この傾向をローターアクトに見ることができます。ローターアクトは今や、私たちと同じく、国際ロータリーの一部です。作為的な年齢制限は廃止されました。自分たちに一番合うロータリーの体験はどのようなものかを、ローターアクト自らに決めてもらおうではありませんか。ローターアクトと一緒に活動したことがある方なら、この若者たちが聡明で、活発で、行動力のある人たちであることを知っているはず。ローターアクトは、テンポが速く、より活動的で、せっかちです。この「せっかち」は、長所です。今すぐに結果を出したいから、物事を早く

成し遂げるのに必要な仕事に取り組もうとします。

このせっかちさと粘り強さが、成果を生みます。9年前、ベルリン動物園と協力した新しいプロジェクトのアイデアをロータリアンたちが思いつきました。それは、年に1度、週末に、運動、読書、健康的な食事を促進するために子ども向けの楽しいショーを開催するものでした。ロータリークラブがまだこのプロジェクトについて検討し、協議している間に、ローターアクトたちはこれを早速開始することを決めました。そして今、ベルリンの全36のロータリークラブとローターアクトクラブがこのプロジェクトに参加し、何千人という恵まれぬ子どもに喜びを与えています。

ですから、課題に立ち向かい、ローターアクトや若い職業人にロータリーの扉を開こうではありませんか。

一方で、ロータリアンとなるのにふさわしくない年齢はないということも覚えておきましょう。年齢にかかわらず、誰でも歓迎します。どの年齢の人も、与えることのできる大切な何かをもっています。若いロータリアンに働きかけながらも、ほかの年齢の人を忘れてはなりません。

しかし、既存のクラブはどうでしょうか？世界には、会員の参加促進と維持に成功している地域がある一方で、もっとがんばらなくてはならない地域もあります。成功するには、慎重に新会員を選び、それぞれの新会員に合ったクラブに入会できるようにしていかなければなりません。クラブが新会員の期待に沿う必要があります。十分に時間をかけて

これに真剣に取り組むことは、生涯続いていく新しい友人を選ぶことと同じです。

新会員を、会員数を増やす人員であるかのように考え、やがて忘れてしまうというのは止める必要があります。退会した人はロータリーについて周囲に話し、これがロータリーのイメージに影響します。すべての新ロータリアンに、生涯のロータリアンになってもらいたい、ロータリーに積極的に参加する友人になってもらいたいと、私たちは考えています。

どの新会員も、私たちを少しだけ変えてくれます。新しい視野と経験をもたらしてくれます。このような絶え間ない変化を受け入れる必要があります。新会員から学び、その経験と知識を生かすことで、私たちはより強くなります。だからこそ、クラブに、そしてリーダーの役職に、もっと多くの女性が必要なのです。

新しい人と出会い、その人たちにロータリーを楽しんでもらうことは、私たち自身にとっても楽しみであることを忘れてはなりません。私たちは、互いのつきあいを楽しみながら、さまざまな活動で充実した時間を過ごしています。このような楽しい経験を生かす必要があります。

楽しむための一番の方法は、この協議会や国際大会のような大勢の会議であれ、奉仕プロジェクトや例会であれ、皆が集まること (together) です。集まれば、より活動的になることができます。

ロータリーのビジョン声明の最初の一語がこの言葉 (together) であることも、驚くことではありません。「Together, we see a world where people unite and take action to create lasting change — across the globe, in our communities, and in ourselves. (私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています)」

ビジョン声明は、ロータリーの新しい行動計画の土台を成すものです。その実施において、皆さんは極めて重要な役割を担っています。この新しい行動計画の要は、ロータリーの成長であり、デジタル時代に



ロータリーが適応する一助となることです。この行動計画を実行に移す時が、今やってきました。今後5年間、この計画によりロータリーがより大きなインパクトをもたらす、参加者の基盤を広げ、参加者の積極的なかわりを促し、適応力を高めていくこととなります。

すべてのロータリークラブに、少なくとも年に1度、戦略立案会議を開いていただきたいと思います。各クラブが、5年後にどのようなクラブになりたいかを自問し、クラブが会員にもたらす価値がどのようなものかを認識すべきです。

ロータリーが唯一無二で、世界とシェアするに値する存在であるのはなぜでしょうか。皆さんご自身や奉仕の受益者に、どのような比類ない機会への扉を開くことができますでしょうか。

私たちは人との交わりを楽しみます。世界のどこへ行こうと、出会ったロータリアンと親友になり、もっと一緒に時間を過ごしたいと感じます。私たちは、異なる環境、異なる世代、言葉、文化をもっています。ロータリーでの過ごし方でさえ、国によって、またクラブによって異なります。この多様性こそが、ロータリーを素晴らしいものとしているのです。

私たちは、共有する価値観の下に集まっています。私たちは皆、固い友情でつながり、「四つのテスト」を信じています。ロータリーを経験する方法はいたるところで異なりますが、「四つのテスト」は誰にとっても同じです。

ロータリーは、奉仕プロジェクトを実施し、やり遂げる機会を与えてくれます。これらは、意義があり、持続可能なプロジェクトです。ロータリーでは、寄付だけでなく、奉仕活動も行い、その奉仕がもたらす持続可能なインパクトをこの目で見るすることができます。これは、他にはない機会です。

ロータリーは、奉仕のアイデアを実行に移すために、世界を旅する機会を私たちの多くに与えてきました。

ロータリーはまた、リーダーシップの機会も与えてくれます。私たちは皆、新しい大きな責務を引き受けました。これは、自分自身の栄光の

ためだけでなく、ロータリーのために、ロータリーのネットワークを強化する機会です。人びとのためにリーダーシップへの道を切り開いてあげることこそ、真のロータリーの理念であり、そうすることで皆さん自身がより効果的なリーダーとなります。

私たちがここに来たのは、ロータリーがもたらす機会を信じているからです。それは、ほかの人びとにとっての機会であり、私たち自身にとっての機会です。奉仕の行いは、その大小にかかわらず、助けを必要とする人たちのために機会を生み出すものであると信じています。私たちはまた、どんな奉仕の行いも、インスピレーションを与えることで私たちを変える力をもっていることを知っています。

このことを示す四つのストーリーをご紹介します。

■研修リーダー

クリスティナ・コヴォツ・パトロクルさん：
私が地区ガバナーとしての1年を終えるとき、地区内のロータリアンが毎年行っている奉仕について改めて知り、謙虚な気持ちと畏敬の念でいっぱいになりました。十分な資金援助が受けられずに忘れ去られた学校への支援、心臓病やがんを抱える子どもが普通の生活を送られるようにするための支援、学校へのきれいな水の提供など、ロータリーは機会を生み出し、それまで機会が得られなかった人に希望を与えています。

■研修リーダー

ルド・ヴァン・ヘルブットさん：
私はそれ（機会）を、他人の目の中、そして本では見つけられない世界とのつながりの中に見つけました。それは、インドでの全国予防接種日に、ポリオ予防接種を子どもに受けさせようとわが子を差し出した母親でした。この母親の目に表された感謝の気持ちが、その大きさを物語っていました。ワクチン2滴と笑顔……。これがその子の人生を変えたのです。しかし、私の人生も変わりました。ロータリーは、永い変化を生み、自分自身に心の平和を見出す機会を与えたのです。

■研修リーダー

アハメド A. サーダさん：
28歳のとき、ロータリーで研究グ

ープ交換に参加する機会に恵まれました。そこで私は、ある教授と出会い、ジョンズ・ホプキンス大学での奨学金を与えていただき、臨床研究のスキルを磨いて博士号を取得することができました。帰国後、ロータリーへの入会を求められ、新たな奉仕の世界が私に開かれました。これまで26年間、医療団でボランティアをする機会があるごとに参加してきました。しかし、ロータリーでの最高の機会は、私がローターアクターだった時にやって来ました。そこで、生涯の伴侶となる妻ラニアと出会ったのです！

■研修リーダー

メアリー B. バージさん：

私は出生後に養子に出され、小さな4人家族と共に育ちました。高校では、いじめっ子から逃れるためにトイレに隠れて過ごすことがよくありました。何年間も、追従することに満足し、自分に秘められた可能性にまったく気づきませんでした。ロータリーが、世界市民となり、リーダーシップを発揮し、自信と強さをもってこのステージに立つ機会を与えてくれました。ロータリーは次にどんな機会をもたらすでしょうか？それが何かは分かりませんが、ロータリーのおかげで、私はその機会を受け入れる準備ができています。

ご存知の通り、ロータリーとは、クラブに入会するというだけでなく、無限の機会への招待です。ポリオ根絶のように大規模で歴史的なプロジェクトから、地域社会での小さなプロジェクトや1本の植樹まで、奉仕する機会への扉を開いてくれます。

私たちの中核的価値観を基に、世界中の友人たちとともに、より豊かで意義ある人生への機会の扉を開いてくれます。

ロータリアンとして、ロータリーにとってのこの素晴らしい時にリーダーの役割を務められることは幸いです。私たちのあらゆる活動が、どこかで、誰かのために機会の扉を開いています。

従って、私たちの年度のテーマは、「ロータリーは機会の扉を開く」です。

国際ロータリー 第2570地区ガバナー ご挨拶

2020 - 21年度国際ロータリー
第2570地区ガバナー

相原 茂吉



今 年度よりガバナーを拝命いたしました相原茂吉です。改めまして、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年度のRI会長のテーマはRotary Opens Opportunities.「ロータリーは機会の扉を開く」であります。新型コロナパンデミックで世界の価値観は大きく変わりました。ロータリーも一つの大きな節目を迎えたに違いありません。ポールハリスの有名な言葉があります。

「ロータリーがしかるべき運命を切り開くには常に進化し、時には革命的にならなければなりません」正に2020年度はその時ではないでしょうか？

RIは、奉仕の理念の下、多様性を受け入れるため、そして組織を維持する為、時代の変化に適応すべく戦略計画を実施してまいりました。さらに2017年に新たなビジョンを掲げ、これからの5年間の活動指針となる4つの優先的行動計画を定めました。

しかしながら、活動が大きく制限されている現在、その行動は従来のやり方ではできません。正に今ロータリーは革命的にならざるを得ない「時」に直面していると言っても過言ではありません。

Let's make Fellows!

【地区テーマ】

友達を作ろう

いまRIではwebを最大限に利用することを強く推奨しています。全ての活動を「健康と安全を最優先」すること、そしてすべての行事を「任意」にして「オンライン活動の優先」を決定しました。

例会を基本とし、顔を合わせて一緒に学び、行動することがRotaryの原点であることには変わりはありませんが、covid-19の感染リスクが払拭されない限り、伝統的な会合や活動スタイルは変化せざるを得ません。

そこで、皆さん、まずはオンラインの扉を開いてください。既にお仕事などでオンラインを活用されている方々も少なくないとは思いますが、多くの方々がまだ慣れていないのが現状だと思います。やってみると意外に簡単で、楽しいものです。既に次年度ガバナー補佐

会議は何度もオンライン会議を開いております。世界中に瞬時に繋がるWEBは、まさしく文明の利器であります。この機会が、皆さんに新しい世界の扉を開くのは間違いありません。そして、自粛が解除され、通常の活動が可能になった時、すなわちポストコロナには、今までの価値観とは相当異なる環境の変化があると思います。その時、皆さんが取得されたオンラインの世界は、今まで以上に活躍することでしょう。

さて、みなさんRotaryの基本理念を思い出してください。私達ロータリアンは、奉仕の理想の下、不変であるロータリーの目的を信条とし、4つのテストを胸に刻みながら、行動することが、社会と自分自身に資する事を意味します。

ここでもう一つポールハリスの言

葉を引用致します。

「Rotaryは思い出に浸る組織ではありません。どちらかという過去の業績よりむしろ未来の活動に価値と目的を置く組織です」

新しい時代を迎え、過去の歴史を学びつつ、これからのRotaryを、社会と自分自身の為に育てていく、そしてそのことは必ずや人生をより豊かにし、幸せの機会をもたらすでしょう。

最後に私の今年度のテーマ

Let's make Fellows!「友達を作ろう」です。どうか、みなさん、ロータリーの友情の輪を広げてください。



ロータリー精神と 日本との不思議なつながり

A mysterious connection between the spirit of Rotary and Japan

ロータリーの歴史を紐解いていたら、気がついたことがある。ロータリーを発展せしめた偉大な指導者の多くが、アメリカ中西部出身なのである。まずポールハリスは1905年にシカゴでロータリーを発足させた。シカゴはイリノイ州の州都であり、アメリカ中西部の中心的な都市である。現在もユナイテッド航空などの多くの空港会社のハブ空港になっている。

ロータリー手帳に掲載されている「知っておきたいロータリアン」の項目を見て驚いた。アーサー・フレデリック・シェルドンはシカゴRC会員、アーチ・クランフはオハイオ州クリーブランドのRC会員。更に、チェスリー・ベリーはシカゴRC会員、ハーバート・テラーもシカゴRC会員、ベンジャミンFコリンズはミネソタ

州ミネアポリスRC会員である。全員アメリカ中西部の人達だ。ロータリークラブがシカゴから発祥したとはいえ、その後めざましい勢いで全米各地に広まった。1910年には全米RC連合会も出来ている。それにも拘わらず、ロータリークラブを牽引してきたリーダー達は、なぜか中西部出身者が多い。

私事で恐縮だが、穀物の仕事をしているので、長年にわたりアメリカ中西部に通っている。五大湖周辺の中西部は世界一の穀倉地帯である。当社は特にオハイオ州に契約農家が多い。オハイオ州に行く時は、まずロータリー財団の父、アーチ・クランフのホームグラウンドであるクリーブランドに行く。そこから車で1.5時間。コートランドという土地にパートナーの農場がある。そ

のSchwartz Farmsとはもう30年以上の付き合いになるが、ここでも約5000町歩の農場に大豆やコーンを家族経営で栽培している。金融やIT社会とは無縁で、実に牧歌的な情緒に溢れており、訪れる度に心が休まる思いがする。

とにかく広い。すさまじく広い。日本では北海道が広大だが、やはり中西部の畑とは桁が違う。遥か彼方まで続く広大な大地で、膨大な量の大豆やコーンが生産され、全世界に輸出されている。

中西部の農家は本当によく働く。種蒔きや収穫の時期などは天候との闘いなので、時に寝ずに働いている。食事もトラクターに乗りながら簡単に済みます。一緒に働くと、こちらの身が持たないほどである。

それほどタフな連中で、昨今の我



が国の「働き方改革」などとは全く無縁の人達である。

私はそこに尊敬すべき、逞しく善良なアメリカ人魂を感じる。ドイツ系アメリカ人が多い中西部農家の人達の顔つきは、ニューヨークや西海岸の人達とは明らかに違う。服装も違う。そして白人社会でもある。

そもそもアメリカ東部は、宗教迫害のためメイフラワー号に乗って欧州大陸から逃れてきた人達により発展してきた。アメリカ発祥の地だけに、名門大学やウォール街など金融や政治の中心地が東部にある。南部はスペインやフランスと闘いながら、国土を広げていった歴史があり、石油や棉花などの大産地だった。「風と共に去りぬ」の名場面を思い出す。そして西部は1849年をピークとするゴールドラッシュで拓けた歴史がある。今年のスーパーボール（アメフト）はカンサスシティ・チーフスとサンフランシスコ 49ersで争ったが、49ers（フォーティナイナーズ）というチーム名は、1849年のゴールドラッシュから命名された。

そして、アメリカ中西部はシカゴ、デトロイト、クリーブランドなど名だたる工業地帯がある一方、歴史的には大農業地帯である。東はオハイ

オ、西はネブラスカ、北はミネソタ、南はミズーリーまでの広大な土地は、ほとんど平坦で五大湖の周辺にあり水に恵まれている。また寒暖の差も大きく、生育期の夏場は朝5時から午後7時過ぎまで明るい。まさに穀物の生育に理想的な場所で、大豆・トウモロコシ・小麦など伝統的に世界トップの生産量を誇ってきた。昔から世界の穀物の相場はシカゴ穀物取引所で決まる。

開拓者精神と農業という仕事が結びつき、周囲と協力し共存共栄で生きていくという、社会構造の中で発展してきた農業。

中西部特有の風土とメンタリティーが、ロータリークラブの中核を担う人達を輩出したのではないかと、言っても過言ではないような気がする。

翻って我が国を見ると、明治維新後の富国強兵政策や貿易立国が目立つが、元を糺せば農耕民族として生きてきた我が国である。

狩猟民族と農耕民族に分ければ、日本は間違いなく農耕民族である。我々の根底には農耕民族特有の、集団社会で助け合いながら生きてくという考え方がある。

日本人は個々には余り強くなくと



も、集団になると強い力を発揮することが多い。高度成長期の日本は、この面の良い所が表れた。

スポーツ競技などでも、しばしば日本人らしいチームプレーが発揮されてきた。例として相応しいかどうか分からないが、富士銀行・日本興業銀行・第一勧業銀行が合併する時、新しい行名は「みずほ銀行」となった。日本は“瑞穂の国”が原点だからと思う。

こう見ていくと、アメリカ中西部の大穀倉地帯、それを支える開拓者精神に溢れ、勤勉で正直な中西部の人達と、我々日本人はそのメンタリティーで共通する点が多いのではなからうか。魂の面で相通するものがあると思う。

ポールハリスがRotaryを作った動機は、まさしく、心の癒しであったに違いない。

しかし、アメリカ全土にそして世界中に瞬く間に、世界中に瞬く間に発展していた原因は、中西部出身の善良な偉人たちの精神とモチベーションがあったからこそであると思う。

ロータリー・ビジョンの第一項目は“together”で始まる文章である。他人を思いやる奉仕の心、隣人と良い関係を構築しながら生きていく農耕民族の知恵、我々日本人は、元々ロータリーの精神に通ずるバックグラウンドを持っていると思う。

相原茂吉



新しい時代の舵取りを 相原ガバナーに 期待する

吹上
直前ガバナー
鈴木秀憲



相原ガバナー年度がここに
船出出来る事を心よりお
祝い申し上げます。

新型コロナウイルス感染が拡大する
中での、諸準備は大変であったと想
像致します。

幸にもこの稿を書いている今は、
当県に対しても緊急事態宣言が解除
になりました。この後、徐々に収束
して行く事を祈って居ります。

この新型コロナウイルス禍による
緊急事態宣言が解除になったとはい
え、暫くは感染防止の為に外出（経
済活動）自粛は続くでしょう。つま
り感染予防と経済活動のバランスを
考えながら、徐々に経済の回復を目
指す事でしょう。世間での関心は、

「新型コロナウイルス問題が解消し
た時に、経済活動が100%回復出来
るだろうか？」という事であると思
えます。

今迄の我々の活動は如何であつた
らうか？バブルという言葉は聞か
なかったものの、ある意味でそのよ
うな傾向が有ったのではなかったか
と、私は感じています。従って今回
の試練により、経済活動のみならず
社会通念や常識も変化してゆくと考
えています。否、前向きに変化させ
るべきであるとも考えています。

大企業の管理事務関係を始め、子
供たちの授業に至る迄、オンライン
活用化が進み、これが常識となり、
無駄な動きが少しだけ少なくなりま

した。勿論私は、オンライン化に両
手を挙げて賛成ではありません。オ
ンラインでは心が通じない場合があ
るかもしれません。

進められる合理化は勧め、オンラ
インでは解決出来ない事は手厚く接
する必要もあると思います。ロータ
リーもこの時に脚下照顧を行い、新
しい動きを模索する時であると考え
ます。

この様な時期、難しいと考えれば
難しいが、遣り甲斐のある新しい合
理的な活路を見出しましょう。そし
て相原ガバナーには、その先頭でご
活躍下さる事を心から期待致しま
す。

研修リーダー ご挨拶

富士見
研修リーダー
坂本元彦



皆様こんにちは、相原年度・
研修リーダーの坂本元彦
（富士見RC）です。

今年度の研修委員会の構成は、栗山
昇研修担当委員長（朝霞RC）、阪本
昇寿RLI担当委員長（秩父RC）、及び
各グループからの委員からとなつて
います。

研修委員会の目的は、ガバナーや
ガバナーエレクトが主催する地区の
セミナーや研修会を支援して、ロー
タリアンが基礎知識を学び、これを
理解して、モチベーションを高め、

相原ガバナーに エール

入間

ガバナーエレクト

水村雅啓



7月、相原茂吉ガバナー年度がスタートしました。新型コロナウイルス感染症の影響で、世界中の様々な行動が制限され、私たちロータリー活動も例会をはじめ諸会議、催しが休止状態となってしまいました。特に地区研修協議会が中止となったことは、本年度の重要な方針発表と伝達の機会を失くし、非常に残念でありました。しかし、すぐさまDVD収録による各委員長の方針発表に取り掛かり、またオンラインによる諸会議を開催するなど、相原ガバナーのバイタリティーと発想の転換の速さに脱帽いたしました。たぐいまれなリーダー

シップを発揮され、正に期待されたガバナーだと感服いたしました。

相原ガバナーが掲げた、地区のテーマは「Let's make fellows!」「友達をつくろう」です。積極的にRotaryの扉を開き一緒に活動し、そしてできるだけ多くの友達を、すなわち価値観を共有する仲間を一人でも増やして欲しい、ロータリーを通して新たな友人と出会うことで、楽しみと喜びと充実感を得て欲しい、とおっしゃっています。なかなか会員が増えない当地区の状況を何とか変えようと考えておられます。

今年は、新型コロナウイルス感染症の

感染拡大という大きな脅威にさらさる中でのスタートとなり、例年の年度とは違った地区運営を行っていくことと思います。この状況下で地区の舵取りは非常に難しいとは思いますが、持ち前のバイタリティーで乗り切っていただきたいと思います。私も相原ガバナーの方針をしっかりと受け止め、活動を支え協力していく所存です。そして、地区全体が大きく飛躍するよう次年度に備えていきたいと思います。

改めて相原ガバナーには、ご健康に気を付け、我々ロータリアンをご指導頂きたく心からお願い申し上げます。

かつ地区やクラブのリーダーとなるように協力することです。

ロータリーの歴史や理念の変遷を学ぶことはロータリーを知る上で非常に大切なことだと思います。

研修委員会が企画する具体的な研修行事は、

1) ガバナーエレクトに対しては、

- ①ガバナー補佐と地区委員長等の地区リーダーの研修としての→「地区チーム研修セミナー」
- ②地区とクラブリーダーの研修としての→「PETS」、「地区研修・協

議会」等です。

2) ガバナーに対しては、

- ①クラブリーダーと会員の研修としての→「地区ロータリー財団セミナー」、「地区公共イメージセミナー」、「補助金管理セミナー」、「地区指導者育成セミナー」、「RLIセミナー」等です。

ガバナーエレクトに対する研修行事は前年度に終わっていますので、今年度は相原茂吉ガバナーの主催する上記2)のセミナー等に対する支援を行います。

3) クラブ会員に対しての研修は、

- ①研修委員会→ガバナー補佐やクラブ研修委員長の協力の下に地区やグループ、クラブでの基本的な会員研修を行う。
 - ②RLI委員会→会員にRLI方式にてリーダーとしての研修を行う。
- 以上簡単に研修委員会について申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様には是非研修の大切さを理解していただきご協力の程よろしく願いいたします。

ガバナー補佐 ご挨拶

第1グループ

鶴ヶ島
齊藤勇司



この度、相原ガバナー年度の第1グループガバナー補佐を拝命しました、鶴ヶ島ロータリークラブの齊藤勇司と申します。1999年に入会させていただき2010-2011年度よりロータリー財団委員会に出向しております。今年度、相原ガバナーはホルガー・クナークRI会長のテーマ「ロータリーは機会の扉を開く」を深慮され「Let's make fellows!」「友達をつくろう」とテーマを掲げられました。力不足ではございますが、ガバナーの「熱い思い」を皆様にはっきりとお伝えし、補佐としての役割を全うできますよう努力いたします。何卒ご指導ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

第2グループ

朝霞キャロット
勝瀬義仁



第3グループ

新狭山
西澤長次



この度、第3グループガバナー補佐として拝命されました。新狭山ロータリークラブの西澤長次です。微力ですが、少しでも相原ガバナーの激務を軽減できますように、ガバナー補佐として努力してまいります。クラブと地区の懸け橋になるよう、一生懸命努力をもって責務を果たしたいと思っておりますが、皆様のご指導ご協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。2020年度は新型コロナウイルス感染予防のため、Webシステムを用いて各クラブ間の交流を図るか、直接クラブ訪問を実施するか検討をせざるを得ない状況となりました。第3グループの各クラブの皆様方には、一年間何かとご不便ご迷惑をお掛けすることとなりますが、ご支援、ご協力の程何卒よろしくお願ひ申し上げます。

第4グループ

深谷ノース
新島修一



第5グループ

熊谷西
田代充雄



この度第5グループ ガバナー補佐を委嘱されました、熊谷西ロータリークラブ所属の田代充雄です。1993年に入会しクラブでは会長4回（加藤G、鈴木G、坂本G、鈴木G年度）、地区では職業奉仕委員長2回（立原G、鈴木G年度）、RI委員長（細井G年度）を歴任させて頂きました。

ロータリーの二本柱としてロータリアンなら皆、親睦（Fellowship）と奉仕（Service）をあげます。Fellowshipは親睦と訳されておりますが、連帯感とか協調と訳したほうが良いとも言われております。FellowshipとはFellows（志を共有する仲間）の集まり、即ち例会に外ならないと考えます。例会が通常通り開催出来ないという状況にある現在、いかにFellowshipを図っていくのか、第5グループの会長幹事の皆さんと話し合い、新しい方法を見つけて参りたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひ致します。本年度相原茂吉ガバナーのテーマは「Let's make fellows !」です。

地区幹事

川越
坂口孝





補佐役割の主たる役割は、RI会長、並びに地区ガバナーの掲げるテーマの各クラブへの伝達・支援と、ガバナーのクラブ公式訪問の水先案内人ではないかと考えています。しかし2月以降、新型コロナウイルスの感染影響でロータリー行事が全て中止され、さらに4月開催のRI理事会で200年末まで対面方式の会合抑制などの方針が示され、相原年度のテーマと目標をグループに伝えられる手段が限られてしまいました。このような状況下で本年度のロータリー活動が、予定通り行えるのかわかりませんが、ロータリアンのご理解とご協力を得て、可能な限り補佐の務めを果たせられればと考えています。

ロータリー歴31年です。40歳の時ロータリークラブに入り、6年目の年にフィリピンを災害地視察で訪問いたしました。その時初めて会ったフィリピンのロータリアン宅にホームステイしました。3日間の短い期間でしたが、大変暖かく歓迎されて、別れの時ジーンと来て涙が流れました。それ以来ロータリーが大好きになり、海外との交流ではいつも先頭に立って、ロータリーを楽しんでいます。

ロータリーの楽しみ方は、前に出れば出るだけ楽しくなるということ、海外との交流と支援のお話ができる機会があれば、皆様にお伝えしたいと期待しています。

地区幹事を拝命しました川越RCの坂口孝と申します。この原稿を執筆段階（5月12日）では、COVID-19の影響により、地区事務所は月曜日と火曜日は地区事務所での執務となりますが、それ以外の5日はテレワークとなっております。また、PETSは半日の短縮開催、地区研修・協議会は中止、そして地区大会、国際大会も中止と異例の事態となっております。

現段階では、ガバナー公式訪問もどのような形式で行うのかが不明の状況です。このような大変な事態で各クラブも新年度を迎えたと思います。今こそ、地区、クラブが1チームとなってロータリーを盛り上げて頂きたいと思います。

会員皆様の更なる地区への、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

諮問委員紹介

川越
今泉清詞



坂戸
田中一郎



所沢
梅沢定彦



本庄
高橋福八



熊谷東
野中弘之



入間
石川嘉彦



東松山
真下和男



本庄
加藤玄静



川越
立原雅夫



吹上
鈴木秀憲



所沢
中井眞一郎



富士見
坂本元彦



本庄
高柳育行



熊谷
前嶋修身



行田さくら
細井保雄



本庄
茂木正



戦 略計画委員会

ROTARY・2020は、COVID-19による困難なスタートになった。R歴史は、様々な時代に対応してきた。『Rotary Opens Opportunities & Let's Make Fellows!』みんなで頑張りよう！

川越
立原雅夫



職 業奉仕委員会

職業奉仕委員会委員長を仰せつかった、本庄ロータリークラブ所属の金井福則です。どうぞよろしくお願いいたします。

本庄
金井福則



国 際大会推進委員会

近くて、親日的で、美味しい食事ができる台北市で開催の国際大会に、是非ご参加をお願いします。6月13日には、ガバナーズナイトが台北101の頂鮮で開催されます。

本庄
高柳育行



委員長 挨拶

危 機管理委員会

「危機管理」は、ロータリー活動に参加するすべての「青少年を守るため」にあります。ハラスメントに対する予防、発生時の対応、再発防止の3点が強く求められています。

熊谷
前嶋修身



会 員増強委員会

昨年度に引き続き会員増強委員長を拝命致しました。新型コロナウイルス感染拡大で会員増強は困難な状況ではありますが、委員の方々と共に出来るだけ頑張ります。

熊谷
井埜利博



公 共イメージ委員会

今年度公共イメージ委員長を仰せつかりました山本庄一（川越小江戸RC）です。コロナ災禍を「機会の扉」とらえ、新しい視点のロータリーで公共イメージをとらえていこうと思います。皆様よろしくお願い致します。

川越小江戸
山本庄一



社会奉仕委員会

「社会に必要とされ、望まれる」活動こそが、地域の発展の原動力となります。「今、何が必要とされているのか」、改めて皆で考える機会を作りたいと思います。

入間
水村雅啓



青少年奉仕委員会

今年度はライラ、アクト委員会と青少年交換委員会、二つの委員会を統括して事業を進めてまいりますので皆様のご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

所沢東
中島洋志



国際奉仕委員会

国際奉仕委員会に委嘱を受け8年目になります。国際奉仕の素晴らしさと、奉仕事業の大変さを経験し、更なる自己研鑽に役立てていきたいと思っております。

行田さくお
田島博夫



ロータリー財団委員会

ロータリアンが「世界で良いことをしよう」と行動する為に、皆さまにロータリー財団へのご理解ご協力をお願い致します。

本庄
茂木聡



ロータリー米山奨学委員会

米山記念奨学委員会は日本のロータリーの父、米山梅吉翁の名前が入っている委員会です。相原ガバナー年度の奨学生は16名です。今年度も奨学生共々よろしくお祈りします。

熊谷南
渡邊藤男



2023-24年度 ガバナー候補者 (ガバナーノミニ・デジグネート) 推薦依頼

時下、皆さまにはご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃は地区活動にご理解とご協力を頂き感謝申し上げます。

さて、標題の通り、地区は国際ロータリー細則12.010により2023-24年度ガバナー候補者(ガバナーノミニ・デジグネート)を2021年6月30日までに選出しなくてはなりません。

なお、2019-2020年度の地区大会において指名委員会による手続きが採択されております。

従いまして、ここに改めて国際ロータリー細則12.030.3により各クラブに対し2023-24年度ガバナー候補者(ガバナーノミニ・デジグネート)の推薦を本年9月10日迄に地区指名委員会(委員長:高柳育行)地区事務所宛に提出頂きたくお願い申し上げます。

国際ロータリー第2570地区 ガバナー
川越 相原茂吉

会員数

【2020年5月】

	例 会 数	会員数(人)									
		初 年	5 月 末 現 在	5 月 入 会 数	5 月 退 会 数	本 年 度 入 会 数	本 年 度 退 会 数	5 月 度 純 増 数	本 年 度 純 増 数	女 性 会 員 5 月 末 数	
第1グループ (11RC)	川越	0	94	95	0	0	7	6	0	1	2
	東松山	0	25	24	0	0	0	1	0	-1	1
	小川	1	9	8	0	0	0	1	0	-1	2
	坂戸	0	31	31	0	0	0	0	0	0	1
	越生毛呂	0	17	17	0	0	0	0	0	0	1
	川越小江戸	0	15	14	0	0	0	1	0	-1	0
	川越西	0	17	19	0	0	2	0	0	2	1
	鶴ヶ島	0	29	29	0	0	2	2	0	0	3
	川越中央	0	28	30	1	0	4	2	1	2	0
	坂戸さつき	0	20	20	0	0	1	1	0	0	4
	東松山むさし	0	43	44	0	0	1	0	0	1	6
小計	1	328	331	1	0	17	14	1	3	21	

第2グループ (7RC)	朝霞	0	28	25	0	1	0	3	-1	-3	0
	志木	0	47	46	0	0	1	2	0	-1	2
	富士見	0	45	42	0	0	0	3	0	-3	0
	新座	0	29	28	0	0	0	1	0	-1	2
	和光	0	6	5	0	0	0	1	0	-1	2
	朝霞キャロット	0	12	11	0	0	0	1	0	-1	0
	新座こぶし	0	8	8	0	0	0	0	0	0	2
	小計	0	175	165	0	1	1	11	-1	-10	8

第3グループ (11RC)	入間	0	42	39	0	0	0	3	0	-3	2
	所沢	0	58	58	0	0	2	2	0	0	4
	飯能	0	60	58	0	0	2	4	0	-2	0
	新所沢	2	20	23	0	0	3	0	0	3	2
	日高	0	19	19	0	0	0	0	0	0	3
	所沢西	0	30	31	0	0	1	0	0	1	3
	新狭山	0	15	16	0	0	2	1	0	1	0
	所沢東	0	44	45	0	0	2	1	0	1	2
	入間南	0	43	43	0	0	0	0	0	0	0
	所沢中央	0	24	22	0	1	0	2	-1	-2	2
	狭山中央	0	30	26	0	0	1	5	0	-4	6
	小計	2	385	380	0	1	13	18	-1	-5	24

第4グループ (11RC)	深谷	0	57	59	0	0	2	0	0	2	11
	本庄	0	78	77	0	1	1	2	-1	-1	5
	秩父	0	50	50	0	0	3	3	0	0	1
	寄居	0	23	28	0	0	5	0	0	5	0
	児玉	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0
	岡部	2	14	14	0	0	1	1	0	0	1
	深谷東	0	67	68	0	0	3	2	0	1	0
	川本	1	8	7	0	0	0	1	0	-1	0
	皆野・長瀬	2	11	11	0	0	0	0	0	0	0
	本庄南	0	15	16	0	0	2	1	0	1	2
	深谷ノース	2	32	30	0	0	0	2	0	-2	1
	小計	7	358	363	0	1	17	12	-1	5	21

第5グループ (10RC)	熊谷	0	89	90	0	0	5	4	0	1	3
	行田	0	64	61	0	2	1	4	-2	-3	5
	羽生	0	48	48	0	0	0	0	0	0	4
	加須	0	26	25	0	0	0	1	0	-1	1
	熊谷西	1	9	10	0	0	3	2	0	1	0
	行田さくら	0	50	52	0	0	3	1	0	2	2
	熊谷東	2	28	27	0	0	0	1	0	-1	2
	吹上	0	7	8	0	0	2	1	0	1	2
	熊谷籠原	0	28	29	0	0	2	1	0	1	0
	熊谷南	0	22	23	0	0	2	1	0	1	3
	小計	3	371	373	0	2	18	16	-2	2	22

50RC	男性会員数	1,525	1,517	1	5	61	69		△8
	女性会員数	93	96	0	0	5	2		3
	合計	1,618	1,613	1	5	66	71		△5

【出席率】

この度新型コロナウイルス感染防止の為、各クラブ例会の自粛が行われています。また、2019年の規定審議会により欠席のメークアップが年度内に拡張されました。以上2つの理由により正確な出席率の報告が非常に困難となっております。従いまして、今年度の出席率の月信報告はしばらく、お休みさせていただきます。

スケジュール

【2020年7月】

日 時	担当委員会名	内 容	場 所
5日(日) 13:00~	RI第2570地区	2020~21年度 年度初め地区役員合同会議	川越プリンスホテル
7月	12日(日) 13:00~	R米山記念奨学委員会	米山記念奨学部門セミナー アルカーサル迎賓館川越
18日(土) 12:30~	社会奉仕委員会	社会奉仕セミナー	東松山市民文化センター 大会議場
18日(土)	ロータリー財団委員会	学友会総会	
		第1回オリエンテーション	オルモ
8月	1日(土)	ロータリー財団委員会	ロータリー財団セミナー オルモ
14日(金)	R米山記念奨学委員会	秩父音頭祭り参加	
30日(日) 13:00~	国際奉仕委員会	国際奉仕セミナー	

新会員紹介

川越中央

氏 名	はしもとなおや 橋本直哉
入会年月日	2020.5.15
勤務先	橋本建設(株)
役 職	代表取締役
生年月日	S.49.9.28
紹介者	長堀 洋



訃報

謹んで哀悼の意を表し、
心からご冥福をお祈り申し上げます。

細田 勝

朝霞



◆ご逝去日
2020年5月21日
(享年78歳)

◆ロータリー歴
1983年11月8日入会
(在籍36年)

◆役職等
1996-97年度 朝霞RC会長
2012-13年度 第二グループガバナ補佐

【今月の表紙】

《山峡新緑羊蹄山》油彩、キャンバス 80.3 X 130.1

1995年 相原孝一朗美術館所蔵

早朝の逆光の中で目に飛び込んできた山腹の複雑な緑の連なりと、小さな紫色の羊蹄山を捉える。六花亭製菓株式会社からの依頼で制作された「北の十名山」の1点で、一堂に展示されることを考慮し、単調にならないよう珍しく季節感が意識されている。

ガバナー月信 2020-2021年度 Vol.1

2020年7月1日発行

国際ロータリー第2570地区 地区事務所
〒355-0028 埼玉県東松山市箭弓町2丁目5番14号
ガーデンホテル紫雲閣3階

[TEL] 0493-21-2570 [FAX] 0493-21-2571
[mail] d-office@mail.rid2570.gr.jp
[Web] https://www.rid2570.gr.jp

[月信原稿送信先] info2020@rid2570.gr.jp
ガバナー月信編集委員会 八木拓也